

巻頭特集

男子校 大解剖!!

男子校の魅力と教育効果

現在、公立高校の多くは共学校で、男子校は学校数・定員とも減少傾向にあります。

しかし、難関大学の合格実績ランキングの上位は男子校が多くを占めています。

社会で活躍する人に男子校の中高一貫校出身者が多いのも事実です。

欧米などでは、男女別学の教育が見直されており、男子校への期待は高まっています。

男子校の現場を取材し、男子校の良さや教育効果を検証しました。

POINT 1

男子特有の成長に
合わせてアプローチ
先生の指導も受け止めやすい
環境がある

「男子には男子なりの伸ばし方があり、男子の成長時期に合わせた指導の仕方が必要です」という**成城中**の宮本八太郎入試広報室長の言葉通り、思春期の男女には成長段階に違いがあり、特に中学生では男女間に身体的・精神的な成長のスピードに大きな差があります。

男子は大器晩成型が多く、徐々にエンジンがかかり、最後にもすごいパワーを發揮すると言われます。

また、物事に対する考え方や取り組み方も男女で異なる特徴があります。

一般的に言われているのは、男子は空間的な認知能力に長け、図解で覚えることが得意。一方、女子はまず耳から覚えることの方が得意なため、まずは丁寧な説明を必要とします。理科の実験をするにしても、好奇心旺盛な男子は、実験器具が目前にあれば、すぐにでも試したくなりますが、女子はきちんと説明を受けてからでないと触れようとしません。つまり、アプローチの仕方から男女では違うと言えます。

男子校ならではの試みとして**芝浦工業大学附属中**の大坪隆明校長は次のように説明します。

「中学の理科では生物や化学系の実験が多いのですが、本校では工学系の実験やものづくりの体験を意識的に多く取り入れていきます。特に中2の「ロボット製作」では、最後はその性能を競い合うために戦わせるのですが、大いに盛り上がりです。」

まさに男子校ならではの光景が思い浮かびます。

明法中の早川哲生入試広報部長は「中学生の男子はちょっとしたきっかけや自信を与えることで物事に夢になり、大きく成長するケースが多い。しかし、多感な時期なので、女子の前では自分を取り繕おうとする子も少なくありません。男子は、女子の前で先生から叱られることを嫌がり、強がったり反抗したりすることもあります。その点、男子校には先生からの指導もしっかり受け止めやすい環境があります」と、男子の指導の特徴を語ります。

明治大学付属中野中の海老澤貞行先生（入試広報委員長）も「男子だけなので、間違っただけは間違っただけで、きちんと指導しやすい部分があります」と言います。

男子は、単に励ますだけではなく、現実を見せて本人に自覚させ、これからどうすべきかを考えさせるほうが効果的という面からも、時には厳しく接する必要があるのです。

POINT 2

男子ならではの競い合い
男子校への期待は
「大学進学への強さ」

近年の男子校は「男らしさ」「質実剛健さ」の育成よりも、大学進学への指導に力を入れるなどの学習指導面が人気のポイントになっているようです。

出身校別の東大合格者ランキングでも圧倒的に男子校・女子校が上位に名前を連ねています。そこには男子ならではの競い合いの効果があるようです。

高輪中では、中3になると6クラスのうち2クラスが特進クラスになります。

「特進クラスは進級時にクラスの入れ替えがあるので、サボっていれば落ちてしまいます。中3の進級時に特進クラスに入れなくても



■京華中



■高輪中



■明治大学付属中野中



■明法中



■芝浦工業大学附属中



■成城中

役立つことが幸である。社会で役に立つ場

POINT 4 社会に出た時に活躍できる力を

「中学生という時期は強がりな年頃ですが、どちらかというと内弁慶な生徒が多いのか、気持ちのやさしい子が多いですね。本校の教育目標の一つでもあります。感謝の意思を伝えられる心を育て、人の心の痛みを理解できるやさしさを身につけることを大切に育てていきたいです。」



■本郷中

次にチャンスがあり、生徒同士、お互いに刺激を感じながら勉強に励んでいます。男子なので競い合いをしてほしいのです」と真壁亨先生(入試広報部長)は言います。京華中の町田英幸校長先生も同様に「男子は、基本的に競争意識を持っていません。友だちにもライバル意識を持つし、相手の成績が上がれば自分ももっとがんばろうとする。また、男子は自信を持つと大きく伸びていく特徴があります。男子校には、男子指導の経験から、いかに機会を逃さずに子どもたちを良い方向に導いていくかのノウハウがあります」と説明してくれました。本郷中の場合、得点によって「級」「段」が認定される同校独自の「本郷数学基礎学力検定試験(本数検)」、「本郷英単語基礎学力検定試験(本単検)」を実施しています。「学年の壁を越えた共通問題を出題し、結果は校内に貼り出されます。同級生はもちろん、後輩には負けたくない、先輩より上を目指したいという競争心から勉強へのやる気生まれています」(本郷中・野村竜太先生)と、男子の競争心を上手に刺激しながら主体的な学習へとつなげています。東大や京大のほか、医学部への進学者も増やしている城北中でも、継続した自学自習の重要性を指摘します。「校内に高2、高3の自学自習の場を設けています。図書館・ゼミ室などの自習スペースはそれぞれ40〜50名分を確保し、夜20時まで利用が可能。閉室時間には追い出しをしなければならぬほど生徒たちは熱心に勉強しています」と、同校の鈴木邦彦広報企画部長は目を細めます。世田谷学園中は、カリキュラムやテキストなどの工夫を重ね、学校の努力が実を結んできた学校の一つです。同校の中村俊明広

果を話してくれました。

POINT 3 男子校はやさしい子が育つ！は本当？

を採ることを目指す」の言葉にあるように、中高時代は自分探しの場とも言えます。男子校では、学校生活を充実させながら、将来に向けて自分の潜在能力を最大限に発揮しながら成長する時期です。芝中では、男子校ならではのと言える体験型の行事や学習の場が豊富です。スキー教室や林間学校、農村留学、化石採集をはじめ、富士山登山や自転車で琵琶湖周など、大胆なこともやっています。同校の荒久保聡入試広報部長によれば、「がんばり抜く力をつけることも男子特有の連帯感を醸成する。この連帯感から社会に対する思いやりややさしさが育つ」と言っています。世田谷学園中には「生き方」という授業があり社会に対してどのように向かっていけばいいのかといった人としての心構えや態度を坐禅や法話などを軸にして学びます。同校の中村俊明広報部長は「この授業により、受験や進路選択などの局面において、自分にとって何が重要なかを冷静に考えることができるようになります」とその効果を話してくれました。



■城北中

報部長は「医歯薬系の進学者も増えつつあります。教育プログラムは、オリジナルのテキストを作成したり、毎年のように教員が工夫を凝らしたりして改善を行なっています」と話してくれました。日本学園中では、自分の進捗状況や補強したい教科分野に合わせて主体的な学習に取り組み「ちがく講座」のほかに、中高の壁を取り払って行く、朝7時30分からの「新テスト・現代文・対策講座」を行っています。日本学園中の谷口哲郎中学位部長は、「中1から高3までの生徒が参加しています。先輩の背中を見て、背伸びすることが男子にはとても良いことだと思っています」と説明してくれました。男子に合わせた効果的な指導システムを取り入れている二例です。進学面について、桐朋中の片岡哲郎校長は次のように話します。「進路は、好きな仕事や自分の個性をしっかり見極めて選ぶ生徒が多く、大学選びも偏差値・辺りではありません。成績優秀者は必ず東大を目指すというのではなく、国立では橋大や京大、東工大、北海道大など、その大学が持つ校風や伝統に憧れて受験を志す受験生もいます」というように、大学進学も本来の姿が浸透しているようです。

まで他学年や同級生と多面的な組織を作

POINT 2 男子校は競争心を持って育つ！は本当？

「本校では上級生と下級生のトラブルはまず聞きません。中学と高校の校舎が分かれていないためなのか、上級生が下級生の面倒を見るという雰囲気自然とできています」(高輪中・真壁亨入試広報部長)。「やさしい子が多いのが特徴。特にお母さまからは、「私が入りたいくらい」との声も多々あります」(芝中・荒久保聡入試広報部長)。「文化祭での来場者からホスピタリティが高いとの声をいただきます。保護者からは「粗暴さが目立った子どもが穏やかになった」などの声もあります」(獨協中・坂東広明教頭)。「本校の高校卒業生に男子校でよかったと思うポイントは何かとのアンケートをとったところ、①努力ができるようになった、②人に優しくできるようになったことを挙げている生徒が多いです」(日本学園中・谷口哲郎中学位部長)。「男子校の先生の感想が並びます。男子は中学から高校になると親とあまり話をしなくなりですが、日本大学豊山中の取材では親への感謝が込められた心があたたかくなるエピソードがありました。同校は皆勤賞を受賞した生徒の親にも賞を贈るなど、保護者の協力を大切にしている学校です。『6年間弁当を作った最後の日、いつもは『食べ終えた弁当箱を出さない』と言わないと出さない子が、空の弁当箱を出していたんです。しかも洗ってあったそうです。不思議に思った母親が中身を確認すると『6年間ありがとう』というメッセージの入った手紙が入っていたのです」(日本大学豊山中・中田正勝広報部長)。「知らず知らずのうちに、周囲への思いやりの心が育っていたのでは」。足立学園中の相澤智子広報部長も次の



■世田谷学園中

「卒業生を見るとガッツが備わっていると感じます。物事がうまくいかないときでも、あと二歩がんばろうと切り替えられる感覚が身につけている生徒が多い。これは社会に出てたくましく生きる力になります。こうした心の持ち方は、男子校の生活の中で自然に涵養されてきているのではないかと思います」と話してくれました。ソフトなイメージになっているとはいえ、体を鍛えたり、仲間と二緒に競い合ったりする男子校らしい行事などを通じて力強さも培われていくでしょう。芝浦工業大学附属中は「ランゲージアワー」という言語教育を実施しています。「男子は女子と比べて寡黙であったり、親との会話が少なかつたりするもの。この取り組みはそうした男子の特徴を補う意味もあります。試験対策というより、『ミニミニケーシング』ツールとしての日本語を学ぶ時間」と位置づけています(大坪隆明校長)。駒場東邦中の生徒たちは、中1から高3まで体育祭や文化祭などの行事、クラブなどで他学年や同級生と多面的な組織を作



■聖学院



■巣鴨中



■足立学園中



■芝中



■桐朋中



■日本学園中

「本校にはチューター制度があり、卒業生が毎日交代で後輩たちの勉強や進路相談に対応してくれています。生徒にとっては良きお兄さんのような存在で、そうした先輩からのアドバイスがモチベーションアップにつながります」と、その効果は期待以上のようです。

卒業後の結びつきの強さは、**佼成学園**中の荒木和晴先生(校長補佐)も強く実感しています。

「本校にはチューター制度があり、卒業生が毎日交代で後輩たちの勉強や進路相談に対応してくれています。生徒にとっては良きお兄さんのような存在で、そうした先輩からのアドバイスがモチベーションアップにつながります」と、その効果は期待以上のようです。

「男子校は、生徒同士だけでなく、先生と生徒との距離もかなり近くなります。卒業後もよくよく学校を訪れて、後輩たちのためならば、と勉強を教えてくれることもあります。生徒同士の上下左右のつながりだけでなく、学校とのつながり、先生とのつながり、そのすべてが強くなるのが、男子校の特徴だと思います。」

卒業後の結びつきの強さは、**佼成学園**中の荒木和晴先生(校長補佐)も強く実感しています。

「本校にはチューター制度があり、卒業生が毎日交代で後輩たちの勉強や進路相談に対応してくれています。生徒にとっては良きお兄さんのような存在で、そうした先輩からのアドバイスがモチベーションアップにつながります」と、その効果は期待以上のようです。

「本校にはチューター制度があり、卒業生が毎日交代で後輩たちの勉強や進路相談に対応してくれています。生徒にとっては良きお兄さんのような存在で、そうした先輩からのアドバイスがモチベーションアップにつながります」と、その効果は期待以上のようです。



■駒場東邦中

中学・高校時代は将来のライフスタイルに大きな影響をもたらします。充実した中学・高校生活を送れるように、単に流行に流されずにお子さんの性格や希望、ご家庭の方針を考慮して慎重に学校を選んでほしいと思います。

男子校、女子校、共学校にはそれぞれの良さがあります。学校選びでは男子校か共学校かの他に、進学校か付属校か、宗教的な教育があるかないかなど、学校選択の基準はさまざまあります。こうした基準も考慮に入れながら我が子にあった学校を選んでほしいのですが、実はそれは簡単なことではありません。

男子校、女子校、共学校にはそれぞれの良さがあります。学校選びでは男子校か共学校かの他に、進学校か付属校か、宗教的な教育があるかないかなど、学校選択の基準はさまざまあります。こうした基準も考慮に入れながら我が子にあった学校を選んでほしいのですが、実はそれは簡単なことではありません。



■東京都市大学付属中



■攻玉社中



■佼成学園中



■獨協中

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

POINT 5
自分らしさを発揮し、
エキスパートが育つ

実際に男子校に通っている生徒からは「女子の目を気にせず、自然体でのびのび学校生活を送れるのがいい」という声を聞きます。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

「かにも男子の好きな世界です。共学校ではあまり中心となるクラブではないと思いますが、男子校では思い切り活動できます」と同校の眞壁先生。

自主・自立・個性を尊重する校風の桐朋中は、「自分を追求する学校文化があり、それを互いに認めるので、教室にはさまざまな個性が集まっています。クラスの話し合いの場では、自分の意見を持つことが重視されます。普段はともするとバラバラな個性の集まりが、学校最大のイベントである桐朋祭になると、実行委員を中心に「気になさまりませぬ」(片岡校長)と学校の一体感や連帯感の中で学校行事が進められます。

POINT 6
学年を越えた
先輩・後輩との関係
連帯感、一体感で
一生の財産を得る

視の課程で進める一方、授業や校外学習では、向学心を強く刺激し、深い掘り下げを求める幾多の機会を用意します。たとえば個々の関心に基づく探究心を触発する「研究旅行論文」、系列の東邦大学での外科医さながらの医療体験「ブラックジャックセミナー」等々、多彩な企画に参加する中で、自分の適性や野心の方向性を、生徒たちは実感的に見出し、いくのです。



■日本大学豊山中